

## 第2回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成30年6月20日（水） 10:00～12:00
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 205 会議室
3. 出席者：  
（委員）永井議長、喜連川委員、竹中委員、堀田委員、米田委員  
（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、泉統括役、  
松尾経営企画部長、矢作総務部長、前田経理部長、  
中村研究公正・法務部長、岩谷知的財産部長、岩本戦略推進部長、  
高見産学連携部長、野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、  
井本臨床研究・治験基盤事業部長、河野創薬戦略部長、  
林革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長
4. 議事
  1. AMED の自己評価について
  2. 最近の動向
  3. その他
5. 議事の概要  
開会后、事務局より出席者の報告等を行い、議事に入った。  
議事1について、事務局より資料1、資料2等を基に説明を行った。  
また、議事2について事務局より参考資料7を基に説明を行った。  
委員からは、以下のようなコメントがあった。
  - PO ごとに課題数に差があると聞いているので、見直しがあってもよいのではないか。PO の横の情報共有が、ノウハウも含めてできるとよいのではないか。
  - 機構のPD・PS・PO システムは充実してきていると思う。事業間でPO のやり方が違うので、PS やPO の意見交換がもっとあるとよいのではないか。
  - 大学の財務会計システムとファンディングエージェンシーが機動的につながるとありがたい。
  - データサイエンティストの数は少なく、各施設で人材を確保できないので、うまく共有化できないか。
  - AMED がファンディングを通じてデータの集約、共通プラットフォーム、大型

機器の共用を誘導していくべきではないか。

- AMS（AMED 研究開発課題管理システム）データで、支援した課題が次のステップに進んだというようなストーリーが見えるようになるとよいのではないか。
- 医工連携は医療機器のところを中心に書かれているが、医薬品でも、細胞治療、遺伝子治療のような新しいモダリティを製造することが必要で、工学の方々にもっと入ってきていただけるとよいと思う。

外部評価報告書(案)については、本日発言のあった意見を踏まえ修正の上、各委員の意見を聴いてまとめることとされた。

以上で議事を終了し、閉会した。